

- 問1 しゅう集車が家庭から集めたごみを、最終的に清掃工場へ運ぶのはなぜですか。
- 問2 なぜ発電所でつくられた電気を、そのまま家庭に送らずに、一度「変電所」を通す必要があるのでしょうか。
- 問3 日本で水力発電が昔からさかんに利用されてきた理由は、どのような自然環境があるからですか。
- 問4 リユースを進めることで、どのような良い効果がありますか。
- 問5 清掃工場でごみを燃やしたあとに残る「灰」は、最終的にどうなりますか。
- 問6 発電所でつくられた電気を、家庭や工場に届けるために電圧（電気の勢い）を下げる役割をしている場所はどこでしょう。
- 問7 清掃工場でごみを燃やす、一番の目的は何でしょうか。
- 問8 家庭から出されたごみや資源を回収して、清掃工場まで運ぶために使われる特別な車を何とといいますか。
- 問9 清掃工場で、ごみを燃やしたときに出る熱は、どのように利用されていますか。
- 問10 清掃工場でごみを燃やすとき、空気中に有害な物質が広がらないようにするために、どのような工夫をしていますか。
- 問11 ごみとして捨てるときに、商品や容器包装についている「リサイクルマーク」を確認することには、どのような理由がありますか。
- 問12 使わなくなった服を、ごみとして捨てるのではなく、必要としている人に譲るような、形を変えずに繰り返し使う取り組みのことを何とといいますか。
- 問13 日本でいろいろな種類の発電方法が使い分けられているのは、なぜですか。
- 問14 家庭で「ふろの残り湯」を洗濯に使うのは、なぜ水資源を守るために良いことなのでしょう。
- 問15 川から取り入れたばかりの水は、そのままでは飲めません。安全に飲めるようにするために、水をきれいに処理する施設のことを何とといいますか。
- 問16 料理をする時の火や、お風呂のお湯をわかす時の熱など、生活に必要なエネルギーをすべて「電気」だけでまかなう住宅のことを何とといいますか。
- 問17 使い終わったものを、一度分解したり溶かしたりして「原料」に戻してから、新しい製品に作りかえることを何とといいますか。
- 問18 工場で機械を冷やすために使った水を、繰り返し使う取り組みには、どのような目的がありますか。
- 問19 私たちがごみを減らすために、まず「リデュース（ごみそのものを減らす）」を意識することが大切なのはなぜですか。

答え合わせ・解説 No.3

問1	答え ごみを適切に処理するため	私たちが日常生活で出すごみは、そのまましておくとも町が汚れてしまいます。しゅう集車で清掃工場へ集めることで、ごみを燃やしたりリサイクルしたりと、適切に処理して町を衛生的に保つことができるからです。
問2	答え 電気の電圧を使いやすく調整するため	発電所でつくられた電気は非常に高い電圧のまま送られてくるため、そのまま家庭の電化製品に流すと故障してしまいます。そのため、変電所で安全に使える電圧に下げってから届ける必要があります。
問3	答え 山が多く、雨もよく降るため水が豊かだから	水力発電には、高い位置から勢いよく流れる水が必要です。日本は山地が多くて高低差があり、雨もよく降るため、この発電方法に適した自然環境が整っています。
問4	答え ごみの量を減らし、資源を無駄にしない	物を大切にしてお使いし、繰り返し使うことで、本来ごみになるはずだったものを減らすことができます。これにより、新しい物を作るために使う資源の消費を抑え、限りある資源を効率よく使うことにつながります。
問5	答え 最終処分場（埋め立て地）に運ばれる	ごみを燃やすと、燃え残った灰が発生します。この灰の一部はセメントの材料などにリサイクルされますが、リサイクルできない残りの多くは「最終処分場」と呼ばれる埋め立て地に運ばれて埋められます。
問6	答え 変電所	発電所では電気をつくりませんが、つくられた電気はそのままでは強すぎるため、変電所という場所で私たちが使いやすい電圧に下げた後、家庭や工場へ送られています。
問7	答え ごみの体積を小さくして、埋め立てる場所を長持ちさせるため	ごみをそのまま埋め立てると、すぐに埋め立てる場所がいっぱいになってしまいます。そのため、清掃工場でごみを燃やして体積を小さくし、埋め立て地の寿命を延ばすことが重要な役割の一つです。電気を作ることも行われていますが、それは燃やした時の熱を上手に活用する取り組みの一つです。
問8	答え しゅう集車	しゅう集車は、町のごみを効率よく集めて運ぶために作られた特別な車です。この車があることで、家庭から出たごみが素早く清掃工場へ運ばれ、町の中をきれいに保つことができます。
問9	答え 電気を作ったり、温水プールを温めたりする	清掃工場でごみを燃やすときに出る熱（余熱）は、発電をして工場や地域の電気として使われたり、温水プールや近くの施設にお湯を送って温めたりするのに利用されています。
問10	答え はいガス処理装置で有害な物質を取り除いている	ごみを燃やすと煙やガスが発生しますが、そのまま外に出ると環境によくありません。そのため、清掃工場には「はいガス処理装置」があり、有害な物質をしっかりと取り除いてから、きれいな空気にして外へ出しています。
問11	答え ごみを正しく分別するため	リサイクルマークは、その製品が何からできているかを示しています。マークを確認して素材ごとに正しく分けることで、ごみを資源として再利用（リサイクル）しやすくなります。
問12	答え リユース	一度使ったものを形を変えずに何度も繰り返し使うことを「リユース（再使用）」と言います。似た言葉に、一度ごみとして細かくして、別の製品の材料に変える「リサイクル（再生利用）」がありますが、形を変えずにそのまま使う点がリユースの特徴です。
問13	答え それぞれの発電方法で環境への影響やエネルギー源の使いやすさが違うから	火力発電や原子力発電、自然の力を利用する発電には、それぞれメリットとデメリットがあります。例えば、資源がなくなる心配や地球環境への影響などが異なるため、目的にあわせて組み合わせたり使い分けたりすることが大切です。
問14	答え 一度使った水を捨てずに有効活用することで、新しい水道水を減らせるから	私たちが家庭で使う水道水には限りがあります。一度お風呂に使った水をそのまま捨ててしまうのではなく、もう一度洗濯に利用することで、新たに使う水道水の量を減らすことができます。このように、資源を無駄にせず繰り返し使う工夫は、地球の限られた水資源を守るために非常に重要な取り組みです。
問15	答え 浄水場	浄水場は、川から取った水にまざっている泥や汚れを取りのぞき、消毒をして家庭へ送るための大切な施設です。私たちが毎日安心して水を使えるのは、この施設があるおかげです。
問16	答え オール電化	オール電化とは、家の中で使うエネルギーをすべて電気にまとめる仕組みのことです。台所での料理や、お風呂の給湯にガスや灯油を使わず、電気のみだけで生活を行うのが特徴です。
問17	答え リサイクル	一度バラバラにして原料の状態に戻すことがポイントです。そのままの形で繰り返し使う「リユース」と間違えないようにしましょう。
問18	答え 新しく使う水の量を減らすため	工場などで水を循環させて繰り返し使うのは、限りある水資源を大切に、外から新しく引いてくる水の量を減らすためです。水は大切な資源なので、できるだけ無駄にしない工夫がされています。
問19	答え ごみそのものが出なければ、そのあとの処理の	ごみが出てからリサイクルするのも、実は多くのエネルギーや手間がかかります。一番の解決策は、そもそもごみを出さないように工夫すること（リデュース）です。

